



石川 康弘 議員  
(無会派)



平成7年まで全国で毎年1万人を超えていた交通事故死者数は、令和5年には2678人と年々減少している。一方で、厚生労働省による人口動態統計では、全国で亡くなった自殺者数の推移を見ると令和5年は21037人、うち北海道では976人であり、令和4年と比較しても64人の増加となっている。交通事故者数と自殺者数を単純に比較はできないものの、近年では2万人前後を推移している自殺者の社会的状況は、減少傾向になく、命の大切さと死亡者抑制に対する公的・社会的投資の厚さに大きな違いを感じられずにはいられない。

町は昨年3月に「第3期まぐべつ健康21」を策定しており、町における自殺対策について伺う。  
(1)今後の自殺対策への具体的な施策は。  
(2)国では毎年3月を「自殺対策強化月間」として相談事業や啓発活動を集中的に実施しているが、町の取組状況は。

## 問 自殺対策について

心の健康づくり等に関する情報発信や、関係機関と連携し相談体制の充実に努める

(3)ウェルビーイング（幸福実感）を啓発する考えは。

### 町長

(1)第2期自殺対策行動計画は、令和6年度から17年度までの12年間を計画期間とし、3つの基本施策を掲げて取組を進めている。

一つ目に「相談窓口情報、支援策の発信」では、保健課、札内支所、忠類ふれあいセンター福寿に設置された「こころの健康相談窓口」での相談業務をはじめ、広報やホームページを通じて国や道の専門窓口情報を発信し、心の健康に関する講演会の開催などの啓発に努める。

二つ目に「自殺対策を支える人材育成、ネットワークの強化」では、ゲートキーパー養成研修会を開催し、身近な人の心の不調に気づき自殺対策を支える人材を増やしていくとともに、「幕別町いのちを支える連携会議」により庁内の適切な相談連携体制を整える。三つ目に「生きることへの促進

要因への支援」では、「とちろ生きたるを支える連携会議」や「十勝精神保健福祉協会」等と連携を図り、各種相談体制の充実、情報発信を進める。

## ゲートキーパーになろう！

人は誰しも落ち込むことがあります。  
これを助けてくれる人、そばにいてくれる人、話を聞いてくれる人、それはとても大切な存在です。  
少しでも関心をもってもらうために何かできることがないか？  
でも何をしていいかわからない、どうしたらいいかわからない、そんな時は、相談を聞いてもらいましょう。  
はじめてみるだけでもいいです。  
—その行動が、ゲートキーパーの第一歩になります。—



ゲートキーパーリーフレット  
(厚生労働省)

(2)自殺対策基本法第7条では、3月を自殺対策強化月間と定め、国や地方公共団体は自殺対策を集中的に展開し、関係機関や関係団体と連携協力しながら、相談事業などの事業実施に努めるものと定められている。本町では本年、広報3月号を通じて強化月間の周知を行い、北海道立精神保健福祉センター「こころの相談窓口」や24時間対応可能な「北海道いのちの電話」、町の健康相談窓口やメール

相談窓口の情報を掲載し、悩みを抱え込まずに相談できるよう情報発信を行った。

(3)ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に良好な状態であることを指し、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義といった持続的な幸福を含む概念であり、その感じ方は個人の生活環境などによって様々である。

町としては、法に定められた国や地方公共団体の責務のほか、事業主や国民の責務を発信し、自殺対策を社会全体で支える意識の醸成を図る。そして、第2期自殺対策行動計画の基本施策に沿って、誰もが悩みや生活上の困難を抱える人に気づき、必要な支援につなげられるよう、心の健康づくり等の情報発信や関係機関との連携を通じた相談体制の充実に努める。

ウェルビーイング  
Well-being = 3つの健康が  
満たされた状態

